被爆地学習 絶やさない

修学旅行生 ピークから半減

広島市の平和記念公園を巡る高校生たち＝7月30日

長崎 九州広域圏でＰＲ
広島 九州新幹線に活路

原爆の被爆地として平和に関する学びの場が多くある長崎市や広島市は修学旅行の定番コースとされてきたが、近年は修学旅行の多様化や少子化で、両市ともにピーク時の半分程度に減っている。両市は経済的な影響にとどまらず、「原爆の悲惨さを感受性の高い時期にこそ学んでほしい」と次世代への教訓の風化を懸念しており、長崎市は九州各地の平和学習施設と連携してＰＲしたり、広島市は九州新幹線の沿線地域への誘致に乗り出したりするなど懸命な営業努力をしている。

長崎市を訪れた修学旅行生は１９９２年までは年間約70万人に上り、宿泊施設に収まりきれない飽和状態が続いたが、近年は沖縄県の人気が高まり、昨年は約29万7千人にとどまった。

長崎市の観光業者でつくる長崎国際観光コンベンション協会は長崎県や市と協力して関東や関西方面への営業活動を続けるとともに、22日には東京都内で教職員や旅行代理店関係者を対象にした説明会「九州ふれあい平和学習」を開く。福岡県筑前町の大刀洗平和記念館、鹿児島県南九州市の知覧特攻平和会館など九州の平和関連施設計4カ所と初めて連携し、首都圏の学校をターゲットに各施設を活用した平和学習を提案する。同協会の永田忠教育旅行マネジャー(57)は「長崎という『点』ではなく、九州という『面』でＰＲし、遠方の関心を集めたい」。

もう一つの被爆地である広島市では、修学旅行生が87年度の57万人をピークに右肩下がりとなり、昨年度は33万人に。さらに昨年3月の北陸新幹線開通を受け、これまで多くの中学生が来ていた富山、石川両県から東京へ流れる可能性が出ており、市職員などが新たな開拓先を増やそうと全国の学校を回っている。

中でも広島県観光連盟が積極的に誘致を仕掛けているのが、２０１１年に九州新幹線が全線開通した九州地方だ。13年度から鹿児島、佐賀、熊本県の公立中の教員を広島に招いてのモニターツアーを実施するとともに、新幹線沿線の学校を回っている。同県観光連盟の山下友加部長(43)は「オバマ大統領の歴史的訪問という追い風も吹いている。修学旅行の選択肢に広島を加えてもらえるように、少しずつ浸透させていきたい」と語った。（御厨尚陽）